

2021年6月

からし種

カトリック片瀬教会



お互いのための祈り

ブランチフィールド神父

今年の復活祭は鍛冶ヶ谷教会で迎え、50日後の聖霊降臨を片瀬教会で迎えました。その間50日は、異動のことで精一杯の毎日でした。今、この片瀬教会でようやく落ち着いたところです。私を迎えるために、皆さんの努力は大変なことと思うし、それだけに歓迎は心が温まります。これからは、皆さんのご希望に応じて行き、コロナウイルスから解放された時に、この共同体が更に成長するように努力して行くつもりです。

司祭館はお陰様でとても居心地が良いです。特に2階のサンルームを改装してくれて、明るく気持ちの良い部屋となりました。気軽に2階に上がって尋ねてきてください。私は孤立をせず、皆さんと楽しく過ごすつもりですから。

5月は主日のミサの後、集まりを4回に亘って行なっています。これは教会の一致のために、お互いに心が通じ合うようにと願って開催しています。皆さんが、熱心に集まりに参加してお話しをしたり、人の話に耳を傾けたりしている光景を目にし、気持ちよくこの企画に応えてくれたことを嬉しく思います。いずれ、このような集いを繰返すことで、教会と信徒の間が結びつき、共同体の絆が深まります。集いで出た意見は、委員会で検討して教会の未来に反映させたいものです。

近いうちに堅信をする人のために、そして初聖体の子どもたちのために祈りましょう。

ご病気のパスカーレ神父様のためにも祈りましょう。私たちの生活の全てに、間違いなく神様が手を組んでいます。だから神様に頼りながら、そしてお互いの為に祈りながら進んでいきましょう。



「ヨセフ年」にあたって ～日本カトリック司牧評議会 会長談話～

昨年12月8日、フランシスコ教皇様は、教皇ピオ九世が聖ヨセフを「カトリック教会の保護者」と宣言されてから150年になるのを記念して、使徒的書簡『父の心で』¹を發表され、2020年12月8日～2021年12月8日を「ヨセフ年」とすると宣言されました。また昨年12月27日には、2021年3月19日から2022年6月26日を『愛のよろこび』家庭年」とすると發表され、さらに今年1月31日に、2021年から7月第4日曜日を「祖父母と高齢者のための世界祈願日」²とすると發表されました。

こう見ますと、教皇様は、これから少なくとも1年余りの間、コロナ禍でつらい状況にあるわたしたちが、とくに家族のことを思い、大切にするようにしましょう、と呼びかけておられるのではないのでしょうか。それも、「すべての人は兄弟姉妹です」と強調される教皇様のお考えを合わせますと、血縁の家族だけでなく、共同体、地域、国、国際社会なども家族と見なして、それぞれを大切にしていくことではないかと思えます。

さて、教皇様が「ヨセフ年」を設けられたのは、聖ヨセフへの信心を深め、取り次ぎを願い、徳に倣うためです。それで、上記書簡の中で聖ヨセフの父親像について思いをめぐらし、コロナ禍にあるわたしたちと分かち合うために、7つの特徴を挙げておられます。これらの特徴も父親だけでなく、わたしたちに皆に当てはまることのできるものです。是非この使徒的書簡を読んで聖ヨセフに親しんでください。

最後に、教会では昔から聖ヨセフへの信心も盛んであり、その取り次ぎを願ってきました。コロナ禍を通ることでわたしたちの信仰と愛が浄化され、この疫病が一日も早く終息しますよう聖ヨセフの取り次ぎによって祈りましょう。

なお、ヨセフ年にちなんで、会長カテケジス『いのちを守る聖ヨセフ』についてまとめましたので、参考にいただければ幸いです。

2021年3月4日

日本カトリック司教協議会 会長

カトリック長崎大司教区 ヨセフ 高見三朗

¹Apostolic Letter of Pope Francis, *Patris Corde*, 2020.12.8 (カトリック中央協議会事務局訳(2021)「教皇フランシスコ使徒的書簡『父の心で—聖ヨセフを普遍教会の保護者とする宣言150周年を記念して』」)

²World Day for Grandparents and the Elderly の仮訳。

★会長カテケジス「いのちを守る聖ヨセフ」は来月から連載で紹介します。

2021年5月度 教会委員会報告

日時：2021年5月2日（日）11：15～12：50

出席者：ブランチ神父、委員長、副委員長、財務、総務、福祉、典礼、冠婚葬祭、宣教司牧、営繕・ヨセフ会、マドンナ会、中高大青会、西田、一粒会、市内キリスト教連絡会、広報、監査、片瀬修道院

□ ブランチ神父様より

- ・片瀬教会に来てまだ特別なことはないが委員会の運び方はまだ慣れていませんが、他の教会での経験からまず会計報告があった方が良いと思います。
- ・信徒大会に代わる集会は、皆さんが意見を言える場を設けました。ミサ後、聖堂の四隅に集います。教会委員が立ち合い意見を言います。大事な事は、意見を聴くが反論はしないことです。時間は30分くらいでいいでしょう。
- ・教会の活動が停止している状態ですが、5月にでもミサを2つにして地区別を止められたらと良いと思いますが、それは皆さんが判断してください。

□ 5月以降の日程確認

- ・主日ミサについては引き続き、地区別ミサ継続とするが、神父様の意向もあり、地区別解除可能な兆候が出てきた場合は、臨時委員会を開き地区別廃止を検討する。

□ 報告および連絡事項

1. 司祭館改修状況

1) 今までやったこと

- ①階段、廊下、玄関、トイレ、信徒会館前手摺の設置
- ②2F各部屋のクリーニング
- ③サンルームのフローリング張替、照明交換、カーテンレール交換
- ④1Fキッチン奥の風呂場へ洗濯機、乾燥機の買い替え
- ⑤家具の移動、障子張り替え、清掃、食器移動、食料準備等
(信徒作業)
- ⑥2Fキッチン 調理台、コンロ、コンロホース等器具は購入済。
ガス配管工事。
- ⑦寝室の洗面台更新。
- ⑧浴室手摺、床、浴槽の嵩上げ台設置。
- ⑨サンルーム内壁塗装
- ⑩階段正面の部屋の壁紙張替（この部屋を神父様の図書室とする）
等を行い、費用は約130万円。

2) 電気配線は、司祭館全体で更新する。現在見積中。

3) 2Fふすま2枚の修復と4枚の襖紙張り替えを行う。

4) 現在の司祭着任に伴う改修工事は以上までとし、今後発生する案件については別途委員会で協議する。

2. 4月25日第5地区共同宣教司牧委員会開催報告
 - 1) 湘南キリスト教セミナーは廃止とする。
 - 2) 横浜教区の祈り「司祭のための祈り」「信徒のための祈り」「修道者のための祈り」があることを再認識した。⇒片瀬教会では、コピーを作成し信徒に配布することとした。
3. 宣教司牧部から
 - 1) 4月16日 片瀬公民館主催見学会があり、総勢39名参加。
 - 2) 5月26日 藤沢ボランティア協会主催の見学会30名参加予定。
 - 3) 4月23日 タウンニュースの取材を受けた。いつ載るかは不明。
4. 教会学校から 4月10日に活動を再開。初聖体の勉強中心に順調に進んでいる。
5. 第5地区の「祈りの部門」を6月20日 15:00～ 片瀬教会で行う。

□ 検討・討議事項

1. 信徒意見・質問に対する集会のやり方について
 - 1) 5月9日～31日のミサ後引き続き開催。掃除は集会後に行う。教会委員は全員出席（10時50分には集合）
 - 2) 集会出席者のみ、意見・質問書のコピーを配布する。
 - 3) 集会のやり方は、神父様のお話しにもあったように
 - ①出席者が3～4グループに分かれ、聖堂内の四隅に座る。
 - ②初めに神父様からテーマを話して頂き、その後委員長が出ている意見・質問の読み上げとコメントを言う。
 - ③その後話し合いを始める。委員から司会1、書記1が入り、共同体で思っていることを各グループで話し合う。但し、意見を聴いて反論はしない。時間は30分。
 - ④集会の結果は総務でまとめ、委員会に報告し内容検討する。
 - ⑤結果はからし種等で信徒に伝える。
2. 聖堂入口にある、「子どものミサ」を聖堂ベンチのラックに入れ、空いた棚に書籍と雑誌、福祉団体の通信等を置くようにする。理由は、信徒会館に足を運ぶ機会がなくなっているため。
3. バasketゴール設置の意見があったが、過去に問題もあり、子ども達の意見を聴いたうえで検討することになった。
4. 卓球台は、子ども達からの要望があり更新することになった。中高大青会が購入したいものを提案することになった。
5. 園芸部を作ったらどうかという提案あり。教会の花や樹木の手入れ、敷地内の清掃等、大人から子どもまで園芸が好きな方を募ることにした。園芸を通じて交流の輪が広がると良い。

* 次回の教会委員会は6月6日です。

信徒大会に代わる地区別集会

今年度信徒大会中止に伴い、信徒の方々から意見・質問書を頂きましたが、委員会ではその意見書だけでは不十分と判断し、さらに信徒の意見を聴くためミサ後に集会を開くことを決めました。これはブランチ神父様のご意向で「信徒一人一人の声に耳を傾け、教会委員会と信徒がよりつながること」も反映されています。ミサが地区別のため5月9日から30日まで4回行われました。ミサ終了後、参加者が10人ほどの3～4のグループに分かれ30分間自由に意見交換をしました。小さなグループだったため意見が出しやすく、普段思っていることを本音で話せた信徒も多かったようです。コロナ禍の現状で、ミサのやり方、教会活動のこと、コミュニケーションの取り方等々、素朴な疑問も含め建設的な意見が沢山出て、今後の教会の在り方の参考となりました。貴重な意見として委員会で検討する予定です。



ルカ 上杉優太助祭の司祭叙階式

一粒会会員 K.R.

コロナ禍の厳しい状況の中、3月20日(土)のルドヴィコ茨木 西村英樹新司祭に続き、4月29日(木)に、静岡教会にて同教会のルカ 上杉優太助祭の司祭叙階式が執り行われました。助任司祭として、雪ノ下教会にてお勤めされます。これからも神学生や司祭のために、お祈りください。

あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子として、現れることによって、わたしたちの父は栄光をお受けになる(ヨハネ 15・8)



洗礼者聖ヨハネが食べていたもの



6月になると木々の緑は色濃くなり、鮮やかな色彩のあじさいも咲いて初夏の風情となりますね。6月24日は洗礼者聖ヨハネの誕生の祭日です。イエス様の誕生を祝うクリスマスのちょうど半年前です。これは、ルカ1章の記述から聖ヨハネがイエス様の半年前に生まれたとされているからです。

因みに誕生日が聖名祝日となっているのは、イエス様、聖母マリア様そして洗礼者聖ヨハネの3人だけです。

ところで、聖ヨハネは荒野で修行をしていたことは知られていますが、いなごと野蜜を食べていたとあります（マタイ3・4、マルコ1・6）。本当にいなごを食べていたのでしょうか。日本でも長野、群馬、山形、宮城等の山間部でいなごを佃煮や炒めて食べる所はあります。でもねえ、たまに食べるのならいいんですけど、毎日食べますか？これは、実は「いなご」ではなく「いなご豆」という解釈があります。虫がきらいだから言っているのではなく、何でもヘブライ語では「いなご」と「いなご豆」のスペルが一字違いだそうで誤記されたのではないかと…。とは言ってもレビ記には「ただし、羽があり、四本の足で動き、群れを成すもののうちで、地面を跳躍するのに適した後ろ肢を持つものは食べてよい。すなわち、いなごの類、羽がないいなごの類、大いなごの類、小いなごの類は食べてよい。」(11・21-22)と書かれているのであながち誤記でもないような気がします。何か調理して食べていたのでしょうかね。もう一つの食べ物「野蜜」ですが、色々調べてみてもはっきりしたことはわかりません。蜂蜜のことかなと思っていましたが、荒野にそんなに蜂がいるのかなと疑ってしまいました。多くの学者が「これはナツメヤシの実ではないか」ということを唱えているそうです。ドライフルーツにして食べたりしますが、結構甘く「蜜」ということばが当てはまるような気がします。今回は、聖ヨハネの修行に思いを馳せてみました。

*** 6月の典礼***

1日(火)	聖ユスチノ殉教者	20日(日)	年間第12主日
3日(木)	聖カロロ・ルワンダと同志殉教者	21日(月)	聖アロイジオ・ゴンザカ修道者
5日(土)	聖ボニファチオ司教殉教者	24日(木)	洗礼者聖ヨハネの誕生
6日(日)	キリストの聖体	27日(日)	年間第13主日
11日(金)	イエスのみ心	28日(月)	聖イレネオ司教殉教者
12日(土)	聖母のみ心	29日(火)	聖ペトロ聖パウロ使徒
13日(日)	年間第11主日		

日本の教会の歴史 (四十六)

浦上四番崩れ

大浦天主堂の宣教師に出会い、その指導を受けはじめた信者たちは、仏教の葬式を断ったり、夜間の集会をもったりしたため、やがて奉行所や幕府の知るところとなり、再び弾圧が始まりました。前述の高木仙衛門もつかまって牢に入れられました。

明治維新後も、当初新政府は日本人のキリスト教信仰を認めず、1868年5月、高木仙衛門をはじめとする浦上のおもだった信者たちは、津和野に流罪となりました。長崎のクリシタンは江戸中期からすでに3回の摘発を受けていて、これは浦上四番崩れ（うらかみよばんくずれ）と呼ばれています。津和野に続いて鹿児島、広島、岡山、金沢など21藩に、合計3,000人以上の信者が順次送られました。津和野の乙女峠というところに送られた信者はとくにひどい扱いを受け、棄教を拒む者は凍った池の水につけられたり、竹で打たれたり、過酷な拷問にかけられて36人が殉教しました。5年間に全国で600人以上が帰天し、津和野、金沢、萩などに、その墓が残っています。浦上だけではなく、大村藩の三ツ山や五島のクリシタンたちも摘発され、水之浦、楠原、久賀島などの牢獄に閉じ込められました。

カトリックとプロテスタントの宣教師たちはフランスやアメリカの領事と協力し、クリシタンたちの解放を政府に求めましたが、効果はありませんでした。しかし、欧米に赴いた岩倉使節団から、クリシタン禁制が不平等条約改正の障害となっているとの報告が届くと、政府の方針が変わりました。1873年2月には禁教の高札が取り払われ、牢獄の信者たちはようやく解放されたのです。

生き残った信者たちは浦上に戻ると浦上天主堂の建設を計画しましたが、資金集めに難航し、ようやく1895年に着工、1914年（明治47年）に完成しました。しかしその後、1945年に原爆で破壊され、現在の建物は1959年に再建されたものです。
(結城了悟師による同名の著書をベースに構成)



原爆で破壊された当時の浦上天主堂

知恵の雫

神聖さにごくありふれた事柄にこそかかわっている
ルース・パローズ

6月・7月の主日ミサ予定 (10:00のみ)

6月6日	腰越・七里ガ浜・他	7月4日	腰越・七里ガ浜・他
13日	片瀬海岸・鶴沼・他	11日	片瀬海岸・鶴沼・他
20日	片瀬・片瀬山・目白山・他	18日	片瀬・片瀬山・目白山・他
27日	津・津西・西鎌倉・他	25日	津・津西・西鎌倉・他

お知らせ

◆ブランチ神父様による「聖書と典礼を読む会」

6月2日から毎週水曜日 10:00「聖書と典礼を読む会」が始まります。そこでは次週の主日ミサの「聖書と典礼」を味わいます。参加申込は聖堂入り口の掲示にお名前をご記入ください。

◆ゆるしの秘跡

ゆるしの秘跡を受けたい方は、毎週土曜日 17:00～17:30の間、神父様が聖堂におられますので、直接神父様に申し出てください。

◆ガーデニングサークルへのお誘い ～教会の庭をきれいに～

花壇作り、水やり、草取り、掃除等、できることを楽しく協力しながら行うサークルです。どなたでも気軽にご参加ください。

◆“The 説教” ～宣教司牧部からのお知らせ～

地区別ミサのため、各ミサのお説教のCDを聖堂入口に置いてあります。

2021年 6月号

発行 カトリック片瀬教会

〒251-0035 藤沢市片瀬海岸2-2-35
TEL. 0466-22-4646 FAX. 0466-25-7909

<https://www.catholickatasechurch.com>